

いちようの木は、

校舎と共に見守ってきました

三岳小の思い出は木造校舎、銀杏の木、みんなの笑顔…いろいろな思い出があります。思い出をくれた三岳小に感謝します。

修学旅行の日、銀杏の木の下で、朝早い出発を待つ写真がありました。学芸会、暗くなるまで友達と劇の練習をしました。楽しかったですね。

孫が学校のお世話になったころは、銀杏の木のようにたくましく育ててきました。今、学校が無くなり、子供がいなくなり、寂しい気持ちでいっぱいです。

これからも銀杏の木は大切にしてください。

銀杏の木には大変お世話になった。でも、小さくなったなあ…。二宮金次郎の銅像もあって、毎日手を合わせて校舎に入ったよ。

銀杏の木にはよく登って遊んだ。田植え休みがあつて、忙しいときは学校が休みで、農作業を手伝わされた。いたずらをして、廊下に立たされたこともあつたなあ。

三岳小学校のシンボルとなっている銀杏は、校舎が現在地に建ってから96年間、ずっと三岳の子供たちを見守ってきました。強い日差しや、冷たい風を和らげ、いつでも堂々とした姿を見せ続けてくれました。

その姿が、地域みんなを元気づけ、「あの木のように元気な子供たちを育てよう」という気持ちを伝えてくれました。

この銀杏が、平成7年の強風で枝が折れ、雨風に打たれて元気を無くしてしまいました。銀杏の回復を図るために行なったせん定で、銀杏はとも小さくなりました。学校の行く末を心配して元気を無くしてしまっただけのことです。

でも、切った木からは毎年新しい枝が、たくさん出てきています。今年も春に備えてたくさんの新芽を準備しています。きつとまた大きく枝を広げて、この後も三岳の地域を見守ってくれることでしょう。

